

令和5年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	12	学校名	袋井特別支援学校 磐田見付分校	記載者	堀川 朋子
------	----	-----	--------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
安全・安心な環境	有事への対応力をつける。	・自分の役割を理解し、行動することができたと答える職員 90%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒居住地域の危険について、地図とハザードマップの確認が効果的である。地図に現場の写真を貼ると、より分かりやすい。 ・常に新しい情報への対応が必要である。 ・個別化された対応が良い。
	安全教育の充実を図る。	・事故発生時の自分の役割が分かる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施後の反省、学びを次の取組に活かすことができている。 ・マニュアル化は難しいが、共通理解のツールとして必要である。
	より良い生活を送るための健康と体力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活に結びつく内容を精選し、主体的な学びができるよう授業を計画する。 ・姿勢習慣を意識し、生徒に投げ掛けた職員 90% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が実際に使用できるスキルの測定法や習得方法を、個々の実態に合わせて考えていく必要がある。
働く環境	効率的な業務の遂行をし、万全な体制を創る。	・19時までに退勤した率 90%（突発事項への対応は除く）	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の効率化が進められていて良い。 ・勤務時間に対する意識の向上が感じられる。今後、自己管理の指導を進められると良い。
教員の専門性の向上	作業学習の充実を図る。	・生徒が分かる、できる授業づくりを行う。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・作業班会の課題を明確にし、更なる改善を目指したい。
		・生徒が働く上での自分の強みを知る授業づくりができる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の態度面の育成を図っていく必要がある。
	教科学習の充実を図る。	・指導計画に評価規準記入し授業を行った職員 80%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が分かったと判断できる客観的指標が必要である。 ・答えを出す楽しみを感じたり、考える道筋が分かる力が付いたりすると良い。在学中に分かる楽しみを積み重ねられると良い。

様式第5号

					<ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で対応できるようにするためには、生き方や課題解決の理解につなげていく必要がある。 ・今求められている力を理解し、生徒に合った学習内容を設定することで、他校との違いを出せると良い。
豊かな人間性	<p>道徳教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容を共有することで、実生活の指導に生かすことができる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことを生かす工夫として掲示があるが、生徒の興味を取り入れる工夫が必要である。
交流	<p>生徒の自立する力を伸ばす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の行事及び学年交流以外で共同学習を2回以上実施する。 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・両校生徒の得意なことを上手に取り入れて行われている。共生共育として価値があり、互いに有効な活動をしている。
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを強める。 ・本校及び本校の教育課程について周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が製品のアピールポイントを説明することができるよう、意識して授業を行うことができる。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自信につながる取り組みができています。 ・図書館での販売会は、声の制限等があり難しい。場所を再検討できると良い。
関係機関との連携	<p>関係機関との連携の強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等にかかわる打ち合わせで活用する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各企業との連携が最重要である。年々変化する企業の要求を把握する必要がある。 ・将来につなぐ視点から、個別の教育支援計画に、生徒が分かるために必要な支援が明記されると良い。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上必要なケースにおいて、関係機関との会議を設定する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一年生の段階から、関係機関と関わっていけると良い。
家庭との連携	<p>家庭との連携を図るため、情報共有を図り。共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談や進路相談会、便りなどを通じて情報共有する場を5回以上設けることができる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの便りの発行、連絡ノートの記事について、教員の負担感を考え、ツールが策定できると良い。